

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.53 2012 12/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

「上町台地の
神社仏閣を語る」
高島幸次・釈 徹宗

申し込み受付中!

TITLE

月刊島民中之島

TAKE

53

SCENE

中之島キネマ通り

映画『黄金を抱いて翔べ』公開記念 原作者・高村薫インタビュー!

DATE

「わたくしは架空の土地を小説に書いたことは一度もありません。ビル1棟、路地1本、電話ボックス1つまで、実在の風景を正確に描写することによって、そこに生きる人間やなりわい、時代を含めた空気を描き出したいのです」

以前、高村薫さんにインタビューした時、そんな風に語っていた。着想の起点に土地があり、風景がある。人物造形やストーリーもそこから導かれるのだ、と。



とすれば、平成2年（1990）に発表された彼女のデビュー作であり、このたび22年の時を経て映画化された『黄金を抱いて翔べ』は、間違いなく中之島という場所が書かされた作品と言える。

土佐堀川の端、「住田銀行」の地下金庫に眠る金塊を盗み出す計画に6人の男が集まる。それぞれ人知れぬ過去と暗い情念を抱えた男たちは、時に野宿生活者に身をやつし、時にビル街のマンホールに潜り、周到に犯行計画を練り上げていく。そして、中之島の夜空が赤く燃え盛るクライマックス。

彼らが歩き、潜む場所は、『月刊島民』読者にはなじみ深い風景ばかりだ。淀屋橋、錦橋、肥後橋、田蓑橋。土佐堀遊歩道に中之島公園。かつてのダイビル、



ヨーロッパの名画を中心に、映画は大好きだという。『エレニの旅』『木靴の樹』といった作品を挙げた。かつて中之島の朝日新聞会館へ映画を見に通ったことも。

としたものは。そして、映画化に寄せる思いとは――。

バブルに倦み、空想に遊ぶ。

時は1980年代の終わり。高村さんは商社勤めのOLだった。のちに『リヴィエラを撃て』となる作品を書いてはいたが、小説家になるつもりはなく、『黄金』のアイデアも最初は退屈しのぎの空想だったという。

その隣にあった関西電力の変電所……。「小説を書くことは、わたくしにとって『大きな地図』を描くようなもの」という高村さんが、この小説で描こうとしたのは、中之島ムービー大ヒット記念インタビュー！

祝、中之島ムービー大ヒット記念インタビュー！ 原作者・高村薫が語る

『黄金を抱いて翔べ』を

書かせた、

取材／文／松本創（本誌）
写真／浜田智則

大阪の川と熱帯夜。



中之島公園に立つ幸田（妻夫木聡）とモモ（チャンミン）。背景には淀屋橋やかき船。島民にはなじみ深い風景がふんだんに出てくる。



たかむら・かおる

昭和28年(1953)大阪市生まれ。『黄金を抱いて翔べ』でデビュー(日本推理サスペンス大賞)。平成5年(1993)に『マークスの山』で直木賞を受賞するなど、現代日本を代表する小説家である。大阪生まれの刑事・合田雄一郎シリーズ最新刊となる『冷血』(毎日新聞社・上下巻)が11月末に発売されたばかり。

かり、ふと『ここにお金がたくさんあるんだろうな』と考えたのが始まり。

あの古めかしい建物を眺めるうち、ここに(盗みに)入るには、どこから、

どういう方法があるだろうという空想に夢中になっていったんですね。入るなら地下の駐車場がいいかな、あの高さなら屋上からロープで下りてこれるな、とか。まあ、つまらないお勤めの憂さ晴らしですね。仕事にも、世の中にもうんざりしていた頃ですから。

それと、大阪の暑さにもね」

世はバブル景気の絶頂期。カネと消費を盲信する見せかけの豊かさに、高村さんは倦んでいた。

「あの頃は、OLがランチを食べながら株の話をしているような時代でした。会社でもシャンパンやキャビアなどの高級商品がどんどん売れ、お得意先のホテルでは、宴会費用が1人5万円にもなった。

おかげでわたくしも高い給料をもら

ってはいたのですが、何かおかしい、自分はいったい何をやってるのか」という虚しさをずっと抱えていた。お金

が実態を伴わない、ただの数字として語られる。それが嫌で、札幌ではなく金塊を盗む話にしたんです」

小説の冒頭、犯行計画を首謀する男が吐くこんなセリフは、映画にもそのまま使われている。

『福沢諭吉だったら、やる気はない。金塊だから、やるのさ』





中之島へは今も時々訪れる。目的は国立国際美術館や中之島パルクスでの美術鑑賞。「ずいぶんきれいな街並みになりましたよね」。91年発表の『神の火』では、肥後橋の山内ビルも描いている。

あの頃の中之島だからこそ。

映画の設定は現代に移り、ロケも中之島の各所で行われたが、高村さんが歩いたほぼ四半世紀前の風景は、今とはずいぶん様相が異なっていた。

「当時も大阪を代表するビジネス街ではありましたが、ビルはどれも古く暗い印象で、土佐堀や堂島の川も汚れていた。遊歩道や橋の上のベンチは野宿生活の人たちで埋まり、一般の人が

散策に歩くような場所ではありませんでした。いわば灰色の街。目立つ建物といえば、白くてモダンな大阪市庁舎と、向かいの日本銀行だけ。ただ、日銀の建物は堅牢そうで、盗みに入るという空想はしにくかった。入ったら最後、出てこられないだろうな、と笑」

執筆当時、中之島と高村さんをつないだ場所が、もう一つある。府立中之島図書館だ。

「子供の頃からお気に入り、しょっちゅう入り浸っていました。就職してからは外回りの途中によく立ち寄って時間を潰していた(笑)。工学や建築、物理とか、科学系の書棚が好きで、そんな本ばかり読んでいました。そこで見つけたのが大阪市内のガスの敷設図面。マンホールから共同溝をたどり、変電所を爆破するというアイデアに大いに役立った。あの図書館は、そういう貴重な資料の集まる宝庫だったんですよ。図書館機能をなくすという話もあるようですが、信じられない」

比類なき緻密さで中之島を描いたエッセイ「インメント小説は、着想、取材、資料調べに至るまで」「100%メイドイン中之島」と称しても過言ではないほどコアな「島コンテンツ」だったのである。

主役は「大阪の熱帯夜」。

今回の映画でメガホンをとった井筒和幸監督は、小説誌への初掲載時から映画化を切望してきたという。筆者は、事件記者だった先輩から「これを読めば銀行強盗の心境が分かる」と勧められた。そうやって幾度となく読み返してきた読者も多いだろう。とはいえ、高村さんにとっては22年も前の、しか



もデビュー作。それが映画となり、再び注目されるのは、どういう気持ちなのだろうか。

「1作書き上げては捨て、また次へ向かうということを繰り返しているの
で、こうして映画化の話がなければ思
い出すこともなかったでしょう。でも、
小説は読み継いでくれる人がいる限り、
同時代であり続ける。それが活字の素
敵なところであり、作者にとつては恥
ずかしい……いつまでも昔の作品がつ
いて回るわけですから。」

映画化の話聞いた時には、本当に
やるのかな、ここに出てくるような複
雑な背景を持った人物が2012年に

成立するのかな、と思いました。でも、

そこはさすが関西を知る井筒監督と言
うべきでしょう。特に暴力の表現がと
ても切れ味が良く、巧い。日常のすぐ
隣に境目なく暴力が存在しているよう
な、大阪の空気が描き出されていると
思います」

しかし実は、中心となる6人の登場
人物の中に、どっぷり大阪の人間とい
うのは少ない。それこそが、ストーリ
ーのポイントかもしれない、と高村さ
んは言う。

「大阪に縁はありつつ、どこか冷め
た目で大阪を客観視している人間。つ
まり、いったん大阪の外へ出た——わ

たくし自身もそうですが——人間だか
らこそ、こんな行動が成り立つ。大阪
で生まれ育ち、離れたことのない人な
ら、こういうことはやらない気がする
んです。わたくしの感覚では」

小説が表現する一番大きなものは、
文章から立ち上る「空気」だと高村さ
んは言う。では、『黄金』が醸す空
気とは何か。

「大阪の熱帯夜ですね。あの暑くて
たまらなかった真夏の中之島。川から
立ち込めるムツとするような臭気。そ
ういう空気が主役だと思う。もともと、
映画は真冬に撮影されたので、そこま
では求めるべくもないのですが(笑)」

妻夫木聡、井筒和幸が『島民』になった日。

『黄金を抱いて翔べ』
中之島Premierイベントを直撃！



去る11月1日に行われた、映画公開記念のプレ
ミアムイベント。主演の妻夫木聡さんと井筒和幸
監督が、大阪市中央公会堂の前に敷かれたゴール
ドカーペットを歩くという趣向を凝らした。

開始少し前に到着すると、すでに若い女性の人
だかりが。そして2人が登場するや、黄色い歓声
とカメラのフラッシュ！ シマのシンボルを背に
立っているため、中之島という場所自体に視線が
向けられているように感じられ、思わず感動。

その後の舞台あいさつでは、中之島をはじめ大
阪の街を役作りのために歩いていたことを告白し
て会場を驚きのため息で包んだ妻夫木さん。「も
しかして『島民』を手にとっていたりして…」な
どと妄想してしまう月刊島民プレスであった。



絶賛公開中！

『黄金を抱いて翔べ』

硬質な文体、緻密な描写、骨太なストーリーでエンターテインメント界に衝撃を
与えた高村薫のデビュー作を『(初出の)雑誌にたくさん付箋を貼って何回も読ん
だ』という井筒和幸監督が念願の映画化。若手からベテラン、韓流スターまで豪
華俳優陣を配した渾身の1作。中之島でのラストシーンは雑誌版に基づいている。



原作『黄金を抱いて翔べ』
高村薫 著(新潮文庫)

監督:井筒和幸

脚本:吉田康弘、井筒和幸

主題歌:安室奈美恵

「Damage」(avex trax)

出演:妻夫木聡、浅野忠信、

桐谷健太、清端淳平、

チャンミン(東方神起)、西田敏行

製作:エイベックス・エンタテインメントほか

配給:松竹

長髪・ベルボトムが集う 中央公会堂。

個人的な想い出話から始める。私が中之島の中央公会堂に初めて行ったのは、中学の時だった。1970年代の中頃、近畿放送（現・KBS京都）で「デデさん」と川村尚（その後、川村龍一に改名）がやっていたテレビ番組に「POPS IN PICTURE」というのがあ



70～80年代、街へ出るために雑誌を読むという文化を根付かせた『プレイガイドジャーナル』には、「フィルムコンサート」の項目がしっかり。撮影協力／映画関連古書 駒鳥文庫

り、そのイベント版としてフィルムコンサートが開かれた（この番組のテーマ曲はデオタート

の「スカイスクレイパー」。所謂フュージョン・ミュージックの走り、当時はまだ「クロスオーバー」と呼ばれていた頃の名曲中の名曲であるが、いまだにこの曲を聴くと、70年代の自分に戻ってしまう。「フィルムコンサート」と聞いても殆どの読者はピンとこないかもしれないが、まだMTVなんてものはなく、民放地上波で「洋楽の映像が見られる番組」そのものが極めてレアだった頃であり、かつ家庭用ビデオもほぼ存在しなかったため、「ロックの映像をみんなで集まって観る」というフィルムコンサートは、コアなファンたちにとってはある種の儀式のようなものだった。

小学校からのロックキッズであった私は、仲間を誘ったのだが、あいにく誰も都合がつかなかったので、仕方がないので一人で出か

けた。確か学校が半ドンの土曜日、夏休み前からとても暑い日だった。

「中央公会堂って、どこの駅が近いん？」

「北浜やな。ウチからやったら、動物園前から地下鉄で一本や」

との父親の情報をアテに、イマイチ方角がわからず、なんだかんだと迷いながら汗ダクになって辿り着いた中央公会堂は、既にヤングなニイちゃんエちゃんたちで熱気ムンムン。初めて見た中央公会堂の建築物としての偉容に圧倒され、かつ当時の私から見れば大人なヤングたちに囲まれ（坊主頭は自分一人）、何を観たかは正直、ハッキリとは覚えていない。が、デデさんがアーティストや曲を紹介し、そのフィルムをスクリーンで見ただけ……という原始的な映像付きDJライブ（番組コメントーターであり、渋谷陽一と並ぶロック界きつての論客であった、『ロック・マガジン』編集長の阿木譲もゲストに来ていた）に大きな興奮と満足感を覚え、週明けの学校で「お前らアホやお。最高やったぞ」と、皆に一歩先んじて大人への階段を昇ったことを自慢したのは、よく覚えている。そんなわけで中央公会堂は、「長髪でベルボトムな若者の集まる場所」として私の心に深く刻み込まれたのであった。



入場券売り場の丸い時計が印象的な大毎地下劇場。洋画の名作はロードショー後1年もすればここで2本立てかつ低料金で観られた。1993年閉館。写真提供／毎日新聞社

画」があった頃。

堀埜浩二

「街場」だった、70、80年代の中之島。

そして、あの頃の中之島には「ヤングOH！OH！」などの公開収録や試写会がよく行われた「SABホール」があり、少し北に向かった堂島には、カネはないが時間だけはたっぷりある大学生（&サボリ昼寝のサラリーマン）の溜まり場となっていた名画座「大毎地下劇場」があった。がために、若者たちが大勢集まっていたし、善かれ悪しかれ再開発によってどんどん他所行きで堅苦しい印象になっていく現在の中之島とは明らかに異なる「街場の文化の匂い」に満ちていた。

名画座「大毎地下劇場」には、個人的には頻繁に通った方ではないが、映画（映画研究会。当時アート系の尖った学生の溜まり場だった）の連中には聖地のような場所だったようだ。ネットで座席指定ができるシネコン時代の今となつては、一度木戸銭を払えば1日ずっと入れ替えなしで映画を見ることができ



毎日大阪会館

大毎地下劇場があったのは写真右手「毎日大阪会館南館」（現ホテルエルセラーン大阪）で、2階はセンバツの組合せ抽選会場だった毎日ホール。写真左手の「毎日大阪会館北館」（現アバンザ大阪）には11階に毎日文化ホールがあり、日本ヘラルドの大阪支社もあって頻繁に試写会が行われた。創業60年の名店「ティーハウス ムジカ」は堂島で産声を上げ、昭和55年（1980）に毎日南館南隣の堂島グランドビル地下に移転（現アクア堂島フォンタナ3F）。この店に貼ってあったポスターで大毎地下の上映作品を知る人も多かった。写真提供／毎日新聞社



新朝日ビル(SAB)

昭和33年（1958）に建てられ、大阪グランドホテルや朝日放送も入居。地下の「ABCホール」は昭和41年の朝日放送大淀移転を機に「SABホール」と改名、平成元年（1989）には「フェスティバル・リサイタルホール」と再び名前を変えて平成20年（2008）の取り壊しまで続いた。600席弱のSABホールは公開録画だけでなく試写会や自主上映にうってつけ。のみならず毎年2月には階上の旧フェスティバルホールで「ベスト映画祭」も開かれていた。同じビルで上映作品の「出世双六」があった時代である。

写真提供／株式会社朝日ビルディング

ほりの・こうじ 1960年大阪市生まれ。20代の頃からライターとして街や店に深く関わり、創刊間もない『Meets Regional』をはじめ、多くの「記憶に残る」原稿を執筆。現在、ビッグアップル・プロデュース副社長。商品PRやイベントの企画・運営を多数手がける。

る名画座というシステムそのものの、さらに言えばそういう時間の浪費の仕方が「意味わかんない」だろう。そもそもみんな、観たい作品が大量にあるから名画座に通っていたわけではない。が、映画が「暇つぶしに好適の娯楽」であり、大量の名画をきちんとした劇場で、フィルムで見ることができたからこそ、ネットでオンデマンド配信を見るのとは違う形の「作品との出逢い」があったはずだ。また「SABホール」は、足回りが便利な割にはホールレンタルが安かったためか、自

主上映の映画会などもよく行われていた。ここにも今で言うところの「エンタメ」、つまり極めて消費的なそれとは違う仕方で行く映画と向き合う場があり、そうした文化を取り巻く人々の往還があった。これといった目的がなくても、気楽かつ安価で映画に触れることができた、往年の中之島界隈。それはまだ街や土地が「アセット」などという気色悪い言葉で飾られ始める以前、「鷹揚」という豊かさがあった時代の話である。



映に「島之中」

中之島 シネマロケ地MAP

文／江口由夏 松本 創(本誌)

はい、オッケーです!



大阪国際会議場

『ゴジラ×メガガラス
G消滅作戦』(2000年)
襲来を逃れて東京から大阪に
遷都されるも、またもやゴジラ
が上陸。あえなく崩壊するビル
として登場。



水晶橋

『旅の贈りもの 0:00発』
(2006年)
印象的なアーチを描く大阪有
数のお洒落橋は、大阪から始
まる旅を通して、男女5人の心
象を描く作品にて登場。



大阪市中央公会堂

『プリンセス トヨトミ』(2011年)『Oからの風』(2007年)
『逆転裁判』(2012年)
絵になる中之島のランドマー
クは登場本数もピカイチ。決
意を新たにしているシーンや、主
要人物が登場するシーンに使用
されている。



中之島公園

『黄金を抱いて翔べ』
野宿生活者を装い、ベンチで
夜を明かす幸田とモモ。川辺
で掃除夫をするジイチちゃんが何
者かと密通するのを目撃する。

中之島公園(バラ園)

『黄金を抱いて翔べ』
主人公の幸田に、ジイチちゃん
が遠い日の話をする。土佐堀
川を背に並ぶ二人の関係は。

大坂橋

『黄金を抱いて翔べ』
北朝鮮の元スパイだったモモ
が、行方を追ってきた兄と対
峙する。緊迫と悲しみの背景
に浮かび上がる夜の大阪城。

旧・新大阪ホテル

『憎いあんちくしょう』(1962年)
現在の住友中之島ビルの場
所にあった新大阪ホテル(リー
ガロイアルホテルの前身)の
前では、石原裕次郎演じる主
人公と恋人(浅岡リリ子)との
やり取りが繰り広げられた。



マンホール(地上)

『黄金を抱いて翔べ』
幸田とモモは変電所を爆破す
るため地下に潜り、共同溝を
探索。ここから地上に出る。

京阪電車北浜駅

『特命係長 只野仁
最後の劇場版』(2008年)
大阪を巻き込んだ人気漫画
の劇場版では、主人公の只野
がターゲットを追って駆け込ん
だ地下の駅となった。



大阪府庁舎

『プリンセス トヨトミ』
『ブラック・レイン』『逆転裁判』
『HERO 劇場版』(2007年)
人気ドラマの劇場版や人気
アニメの実写版に洋画など、
バラエティ豊かに使用される。
特に裁判所として撮影される
ことが多いようだ。



大阪城公園

『プリンセス トヨトミ』
『特命係長 只野仁』
『茶々 天涯の貴妃』(2007年)
物語の鍵を握るスポットとして
だけでなく、劇中ロケ地など、さ
すがは大阪のシンボルらしく、
使用されるシーンはさまざま。



大阪市中央卸売市場

『ブラック・レイン』
(1989年)
アメリカから来日した刑事たち
が、指名手配犯の愛人を探し
出して尾行する切迫のシーン。



土佐堀沿い

『黄金を抱いて翔べ』
金塊が眠る銀行のモデルとな
った現・三井住友銀行がある。
犯行グループの「主戦場」に
して別れの場所。銀行の建物
自体は神戸で撮影。

まだまだ伸びしろあり。 映画ロケ地としての中之島。

取材・文／江口由夏(本誌)

映像制作界には「三大阪」なるものがある。道頓堀、
通天閣、大阪城。日本全国の視聴者に伝わりやすくなる
ため、大阪を象徴するスポットとして、この3ヶ所がロ
ケ地に選ばれることが多いのだそう。

ところが、「実は通天閣がロケ地として東京に浸透し
たのはここ6年ほどのことなんです」と、大阪フィルム・
カウンシルのチーフ・コーディネーターを務める大野聡
さん。大阪観光コンベンション協会の一機関で、ボラン
ティアのエキストラを募集する窓口となったり、制作側
の意図を元にロケ地にふさわしいスポットを紹介してい
る。「通天閣は大きなりなロケが組めない道頓堀の代打
として提案しました。それが受けて観光客も店も増えた。

すっかり大阪のシンボルですね」。

映像ツールを通して大阪を盛り上げようと、『黄金を
抱いて翔べ』はもちろん、昨年公開の『プリンセス ト
ヨトミ』など、大阪が舞台の作品に向けてさまざまなサ
ポートを行っている。

では、絶賛売り出し中の中之島もゆくゆくは「四大
大阪」入りを果たす可能性が? 「中之島には安く宿泊で
きるホテルもあり、撮影隊には優しいエリア。ミナミと
は一味違う街並みも含め、既存の大阪のイメージを一新
するロケ地です」と、同じくコーディネーターを務める
松崎千鶴さんは太鼓判を押す。『黄金を抱いて翔べ』効
果で、中之島の知名度が上がることを期待したい。

大阪フィルム・カウンシル

ホームページでは大阪府下のロ
ケ地情報がまとまっているほか、登
録すればエキストラとして作品に出
演できるかもしれない「ボランティア
・エキストラ」の制度も。大阪がメ
インとなる作品の公開に合わせて、
ロケ地マップを制作して配布する
ことも。<http://www.osaka-fc.jp>



連続講座

「海の大阪」

都市大阪創生研究会では昨年度の活動として、大阪と海の間をみつめなおし、生活や産業のなかでの水都大阪を探索してきました。

あまり認識されていないけど大阪はやっぱり海の街なのです。だからディープな海の物語がたくさんあるんです。

そのなかからとっておきの「海の大阪」を、全6回でお伝えします。参加費は無料。多数の参加、お待ちしております。

◎平成10年にスタートした都市大阪創生研究会は、行政と民間のパートナーシップによって新しい時代に向けての都市のリノベーションを実現するため、大阪の未来とそへ至るべき道を考える場として活動を続けています。



なぜいま「海の大阪」なのか。

水都って、川沿いにおしゃれなカフェがあるだけの都市のことでしょうか？ もちろん水辺の快適な空間は大切ですが、水都っていうのは生活や産業が海や川と密接につながった都市のこと。そして大阪はもともと海辺の街として発展してきた都市、そして実際の大阪は今でもちゃんと海の都市なのです。水都大阪という言葉が定着してきつつあるなかで、川だけではなく、海の大阪を通して水都の本質に迫ります。

第3回 12/7(金) ※講座内容はP10～12をご覧ください。

「瀬戸内フェリーのススメ」山本尚生(ハートビートプラン)

雑魚寝の二等室、海上レストラン、至福の大浴場…ひとりフェリーの楽しみ方をご紹介します。船旅は意外と人気、いろんな出会いもあるんです。

「自転車であぐる港湾エリアの楽しみ方」岸田文夫(竹中工務店)

眺めの良い長大橋。情緒豊かな渡し船。造船所や製鉄所の迫力。ちょっとシンドイ、でも楽しい港湾サイクリングはいかがですか。

「港の風景をゆく(3) 築港—めぐるしく変わる港湾風景」山納洋(大阪ガス)

大阪築港事業により、明治36年に生まれた築港。そこにある物語からは、港の賑わいととも、港にかつてあった生活世界を知ることができます。

第4回 12/26(水) ※講座内容は月刊島民 2013年1月号にて掲載予定です。

「近世の埋め立てとその環境」鳴海邦碩(大阪大学名誉教授)

どんどん陸地を拡大し、大きくなってきた大阪。古代から江戸時代までの、地形の変化と、そこでの生活を振り返ります。

「お好み焼きは港が作った？」松塚充弘(関西電力)

お好み焼きのルーツは、韓国のチヂミではないか？ この、古くて新しい命題を、大阪港の果たした役割から、再考します。

「港の風景をゆく(4) 伝法—消失景としての港」山納洋(大阪ガス)

伝法には現在漁港がありますが、この地はかつて、物流港として栄えていました。そして新淀川開削にまつわる物語も、そこには眠っていました。

◎概要

時間／7:00PM～8:30PM

会場／淀屋橋odona2階「アイ・スポット」大阪市中央区今橋4-1-1

受講料／無料 定員／30名(当日先着順)

主催／都市大阪創生研究会ワーキンググループ 協力／ナカノシマ大学事務局

お問い合わせ／☎06-6949-1911(事務局)

◎全体スケジュール

第1回 10/24(水)

「ミックスジュースは港湾ローカルフード」松塚(関西電力)

「船旅の視点で語る海の大阪」森山(一般建築士事務所BA)

「港の風景をゆく(1) 川口—開港地と工場街」山納(大阪ガス)

第2回 11/14(水)

「大阪インナーベイエリアのクレーン」泉(ハートビートプラン)

「ユニークな景色に出合える港」高見(IAOプランニング&デザイン)

「港の風景をゆく(2) 北村—クブリングの記憶」山納(大阪ガス)

第5回 2013年1/16(水)

「近代大阪の港と交通」大西(阪神電気鉄道)

「船長から見た大阪港と川」中野(御舟かもめ)

「港の風景をゆく(5) 北加賀屋—産業化遺産とクリエイティブ・ビレッジ」山納(大阪ガス)

第6回 2013年2/8(金)

「あなたにも関係ある貿易の今」

「港に住むということ」高見(IAOプランニング&デザイン)

「港の風景をゆく(6) 咲洲—港湾風景の現在形」山納(大阪ガス)

※左記は現在の予定です。日程は変更しますが、内容は、講座の進展によって変更する可能性があります。

12 / 7 第3回「海の大阪講座」に向けて

瀬戸内フェリーのススメ

山本尚生
(ハートビートプラン)

大阪から下関へ行くには、新幹線、高速バスに加え、フェリーという選択肢があり、私は出張で専らフェリーを使っていた。大阪南港20時発名門大洋フェリー新門司港行。翌朝9時半には下関に着くし、ひとりフェリーを楽しめる。

船内のムード。

私は決まって相部屋の二等室。お客さんはファミリー、大学生、就活生、そして単独のおじさんが多い。私はファミリーや大学生の部屋を選ぶ、おじさんのいびきは強敵だ。

レストランに行くと、トラックの運



名門大洋フェリー大阪南港出航前。



船上レストラン、朝はファミリーが多い。

感できる。ただ何となく広い空、陸に囲まれた瀬戸内の海を風を感じながら眺めるのも気持ちいい。

夫婦旅、学生旅、女性ひとり旅…。

船上ではいろんな方に出会い、話しかけてしまう。例えばこんな方々に出会えた。

リタイア後の夫婦、北九州在住で、孫に会うため名古屋へ車で船旅。ご主人が瀬戸内海の朝日をカメラで撮りたく、あえて大阪・北九州は船旅を選択。二人部屋でなく、あえての二等室も昔を懐かしんでか楽しんでおられた。

ヨーロッパからの留学生を含む韓国大学生三人組、たまたまワールドカップの日本戦と重なり、時々映らなくなる共有スペースのテレビで一緒に観戦。外国人との出会いは普段の船旅よりも開放的な気分になる。

ときどき出会う女性ひとり旅。二等室にはまず泊まらないので、乗船待ちのタイミンで話しかけてみる。下関の30歳くらいの女性は大阪の友人に会

いによくフェリーを使うとか。子どもの時分から男女問わずフェリーは身近な存在なんだろう。

ゆったり船上時間を
お楽しみあれ。

大阪ではフェリーという交通手段はマイナーになっているが、到着港では大都市や日本へ安価に行ける交通手段として重宝されている。

船内でおしゃべり、甲板で景色や空を眺め、ゆるりと船上時間を味わえる。高級料理や演劇、カジノなど娯楽があるわけではないが、特別な時間が瀬戸内フェリーには用意されている。



甲板から瀬戸内の海を望む。

12 / 7 第3回「海の大阪講座」に向けて

自転車でもぐるぐる港湾エリアの楽しみ方

岸田文夫
(竹中工務店)

大阪は「水の都」として東洋のベニスに例えられる一方、「煙の都」として東洋のマンチエスターにも例えられていた。林と並ぶ煙突を誇らしく思う時代があった。その中心が港湾エリアだ。

自転車こそ港めぐり最強のツール。

港湾エリアは築港、南港、北港、大正内港ととても大きく広大だ。歩いて回るにはあまりに広いが、車では通り過ぎるだけ。自転車だからこそ楽しめる。自転車でなきゃ楽しめない。それが港湾エリアだ。渡し船の乗客はほぼ全員が自転車。地元でも自転車が必須だ。

平日は大型トラックが行き交い、交通量も多いが、休日は車も少なく心地よいボタリング（ぶらぶら散歩感覚のサイクリング）が楽しめる。西九条駅にはレンタサイクル「駅リンクくん」があるの、次に紹介するポイントを参考に、好みのコースを作ってみよう。

(1) 渡し船に乗ってみよう。

現在も大正区を中心に8カ所の渡し船がある。渡し船は無料なのがうれしい。昼間15分〜20分間隔で運行してい



地元の足でもある渡し船。

るので、気軽に利用してみたい。その中でも、海への広がりを感じる「天保山渡」や「千歳渡」がオススメだ。

(2) 長大橋からの眺望が最高。

港には大きな船が航行するので、海に近い橋は水面からかなり高い位置にある。でも、歩道がちゃんとあって自転車や徒歩で渡ることができるのだ。中でも水面からの高さが45mもある「なみはや大橋」にはぜひチャレンジしてほしい。ぐるぐるとループで上る「千本松大橋」や「新木津川大橋」も煙の都を満喫できるぞ。

(3) 迫力の工場風景にドキドキ。

大正区船町の「中山製鋼所」は映画ブラックレインのロケ地として有名だ。空中を這い回る配管がSF世界のような。木津川対岸からの眺めも超カッ



木津川沿いの工場景観。

コイイ。千本松大橋の近くの「太平洋マテリアル」も映画に出てきそうな妖艶さだ。

(4) 土木の構造美にうっとり。

長大橋は下からも眺めてみよう。ゆるいカーブを描く「なみはや大橋」の曲線美。青い恐竜のような「千歳橋」は大正内港のランドマークだ。高潮時に街を守る「安治川水門」などのアーチも美しい。

(5) 昭和が薫る小さな造船所たち。

港の片隅にひっそりと潜む小さな造船所をぜひ見つけてほしい。小型船の修理やメンテナンスで今も現役だ。水の中へ消えるレーンなど情緒たつぷり。

(6) 巨大クレーンに萌えよう。

「サノヤス」や「ダイゾー」などの造船所クレーン。その並び立つカッコよさに、男の子なら見とれてしまう。また、錆びて佇むデリッククレーンな



ど、ラピュタを守るロボットのような哀愁に満ちている。

(7) 水辺を疾走しよう。

もちろん、気持ちよく風を切って走りたい。舞洲や淀川河口では、海辺のサイクリングが満喫できる。

「煙の都」……たばこの煙すらなくなりつつある無煙の時代に、ここは全くの別世界だ。大阪がかつて見た夢の残像をめぐってみよう。

12 / 7 第3回「海の大阪講座」に向けて

港的風景をゆく(3) 築港

山納洋
(大阪方)

昭和26年(1951)創業の洋食店「ビーハイブ」。店主は「朝鮮戦争の頃はアメリカの軍人さん、その後は欧米の船員さんがよく来店していました。昔は人力が頼りだったので、大勢の船員さんに乗せていたけれど、今は機械化が進んでいるので、船員さんが減りましたね」と語る。

築港と侠客・西村捨三

築港とはその名の通り、人工港である。明治18年(1885)に発生した大洪水以降、大阪では河川・港湾整備の機運が高まり、明治29年に淀川改修が、明治30年(1897)に築港工事が、それぞれ始まった。

築港に尽力した人物に、西村捨三^{すてぞう}がいる。彦根藩作事奉行の三男として生まれ、維新後に頭角を現し、大久保利通の推薦で内務省に出仕、土木局長となり全国の河川改修を手がけた。明治



天保山公園内の西村捨三像。

20年には大阪府知事となるも、淀川改修を進められぬうちに農商務次官に抜擢され、大阪を離れた。その後中央官庁を退職、大阪港築港事務所に就任している。費用捻出や工事トラブルなどの苦労を経て、明治36年(1903)には防波堤や主航路、大栈橋などが完成。しかし前年に西村は脳溢血で倒れ、明治41年に亡くなっている。天保山公園には現在、彼の銅像が置かれている。

外国人船員たちで賑わう。

サントリ「アंकフルリス」で知られるイラストレーター・柳原良平氏は、西村の曾孫にあたる。9歳の時に天保山から「山水丸」に乗船して以来船に魅せられ、学生時代には天保山に通い、船をスケッチした。「なにわの海の時空館」には現在、氏の船のスケッチが数多く展示されている。

築港はその後、日露戦争、第一次大戦後の貿易発展により賑わい、昭和9年(1934)の室戸台風により甚大な被害を受けつつも、第二次大戦後にはふたたび活況を呈した。「ビーハイブ」の近くには当時、外国人船員向けのバーが立ち並んでいたという。港があったことで、界限には外国人ばかり



上／船内荷役の様子
 (「大阪港のあゆみ」昭和32年・大阪市発行より) 右／柳原良平「船の画集」

でなく、港で働く男たちの姿があった。

八幡屋にある喫茶店店主は「この界限には人夫出しの会社が多く、日雇い労働者に港湾荷役の仕事をさせていた。界限には食堂、立呑屋、喫茶店が立ち並び、仕事を終えた労働者たちを迎えていた」と。昭和27年から営業していた築港温泉の福田頼隆氏は「銭湯にやってくる労働者には、赤い人、白い人、黒い人がいた。赤い人は鉄くず、白い人はメリケン粉、黒い人は石炭をいっぱいかぶっていた」と語る。

昭和40年代には、海運のコンテナ化に対応した港湾施設が南港に建設されたことで、築港で働く労働者は減り、

界限は徐々に寂れていった。

港に復活した「浪曲寄席」。

築港ではかつて、港湾労働者を中心に浪曲が人気を博した。浪花節の世界は、港に働く男たちのメンタリテイに訴えるものであったのだろう。浪曲界の元締・広沢虎吉は、この地に浪曲の寄席小屋「築港広沢館」を建てている。明治34年(1901)に港湾運送業としてこの地に創業し、現在は総合物流企業に成長した(株)問口は、浪曲の文化をこの地に復活させようと一昨年から「みなと浪曲寄席」をスタート。築港の新たな名物となりつつある。



これぞ大阪の
「聖地」ライン



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト



おなじみのコンビに加え、
ゲストも豪華!

◎今月の授業

【上町台地】

2013年1月講座 ナカノシマ大学×オープン台地 in OSAKA VOL.3

「上町台地の神社仏閣を語る」

講師／高島幸次(大阪大学招聘教授・大阪天満宮文化研究所)

釈 徹宗(相愛大学教授・浄土真宗本願寺派如来寺住職)

ゲスト／中村文隆(生國魂神社権禰宜)

坂本峰徳(四天王寺執事)



生國魂神社

大阪という土地の「地主神」と呼ぶにふさわしい、別格の歴史を持つ生國魂神社。

『大阪の神さん仏さん』の著者と、
生國魂神社、四天王寺の人たちが
大阪の聖地が並ぶ「上町台地」について語り合う。

『大阪の神さん仏さん』は、生國魂神社、四天王寺、住吉大社、大阪天満宮といった大阪を代表する寺社のあり方を考えるところから、大阪の人や街のキャラクターを解き明かしている。

この本の中で、数多くの「聖地」が並ぶ上町台地は、大阪の宗教を考える上で最も重要な場所であると語られている。生國魂神社～四天王寺～住吉大社という長い歴史を有する寺社に加えて、寺町の存在や大阪城のある場所にかつてあった

創建以来、多くの人たちを受け入れてきた四天王寺は今も大阪人に愛され続ける。

大坂本願寺とその寺内町など、「上町台地の神さん仏さん」を理解することは、大阪という都市の原理を考えることと同義であると言って良い。

また今回は中之島から一歩進んで、上町台地を舞台とする街ぐるみイベント「オープン台地 in OSAKA」と連携。生國魂神社や四天王寺の関係者の方にもご登場いただく。釈・高島の研究者コンビに加えて、当事者の方々にも加わってもらうことで、議論がさらに深まることは間違いなし。上町台地の見え方・歩き方が変わるビッグイベントだ!



四天王寺

「上町台地の神社仏閣を語る」

日時／2013年1月26日(土)

2:00PM～5:00PM頃(開場1:30PM ※途中休憩あり)

会場／生國魂神社 参集殿

受講料／1,000円

定員／150名

主催／ナカノシマ大学事務局

上町台地マイルドHOPEゾーン協議会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学1月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

線

のような、模様のような、この写真は何に見えるだろうか？

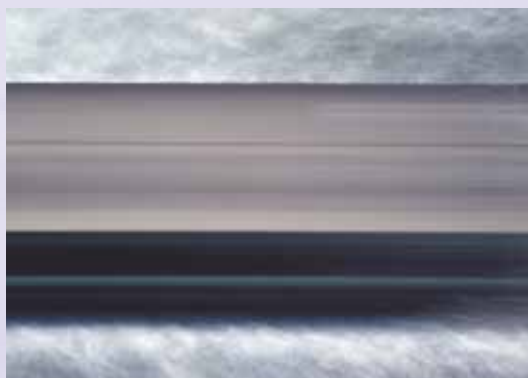
実は島民読者にはとても身近な存在である。答えは堂島川を船が通る様子。作者は川にほど近い福島区に住む写真家・ノモトヒロヒトさんだ。

9年ほど前、大阪生まれではあったものの、特に縁があるわけではなかった福島に住むようになったノモトさんは、近くを流れる堂島川を盛んに船が行き交っている光景を見て驚いた。「こんな都会の中心部で、たくさんさんの船が、それもいろいろなもの載せて通り過ぎていく。これを何か形にできないかと思って」。最初は風景スナップを撮っていたが、だんだんと工夫を凝らすようになり、思い付いたのが川の流れや船を線のように表現する方法だった。カメラを固定し、建物の上から10秒の



堂島川の南岸の遊歩道にて。「いつもこの近くで撮っているんですよ」とノモトさん。

川に流れる時間を写す写真家がいた。



「Lines」をはじめとする作品の一部はウェブサイトで見ることができる。
<http://hirohitonomoto.com>

長時間露光で撮影する。「Lines」と名付けられた作品群は、一見すると単なる線の集まりだが、よく見ると

それらは複雑に関係し合いながら空間的な広がりや色彩の厚みを生んでいる。

「昔あった『逆櫓^{さかか}の松』とか、江戸時代の蔵屋敷とか、堂島川にはすごく長い歴史があるでしょう。こうやって撮ること、ある時間の単位を切り取れ

ると思ったんです」。ノモトさんにとっての「Lines」とは、時間の流れを表したものであるのだ。

2009年には「Lines」がイギリスの「London International Creative Competition」にて入賞するなど、海外でも高い評価を受けているノモトさん。この他にも、昨年の東

日本大震災の被災地を回って撮った「LIFE」や、大阪近郊の街にある閉店したパチンコ店ばかりをめぐる「ファ

サード」など、コンセプトチャルな作品づくりが続いている。

無理を承知でこれらのテーマの共通性を探ねてみると、「うーん、なんでしょうね。地方、かな」。手法はユニークだが、その土地の持つ物語を写真にして引き出そうとする姿勢は通底している。「いつか中之島で「Lines」の個展ができれば」と話すノモトさん。川に流れる時間を閉じ込めた写真を、ぜひその川のそばで眺めてみたい。

トウミン月報

2012年12月1日発行



光り輝く冬の中之島
今年は一気に
エリアが拡大!



※画像は昨年のも、またはイメージです。

寒い季節、川沿いを歩くのは億劫な気もするが、冬はライトアップイベントで中之島が一番美しく見える季節でもある。その代表は、すっかりおなじみの「OSAKA光のルネサンス2012」。府立中之島図書館の壁面に音楽に合わせて光と映像が映し出され



御堂筋エリアの点灯は土佐堀通から長堀通まで。

また、今年から始まるのが中之島の西側を舞台に行われる「中之島ウエスト冬もの」が

新たなイベントが。
西エリアでも
御堂筋にも
どんどん拡大!

そして今年のニュースは御堂筋エリアにも拡大すること。御堂筋のライトアップは昨年同時期に行われていたが、今年から光のルネサンスとして開催される。一直線に並ぶ街路樹へのイルミネーションが新しい演出になるほか、新作スポットも登場。中之島とは一味違う風景を楽しもう。

御堂筋にも
どんどん拡大!

「シャイニング・アートウォール」や、3Dマッピングという特殊技術を使って迫力のある映像を投影する中央公会堂の「光絵本」など、今年も見逃せないプログラムは多数。東会場の中之島公園内のバラ園は、まさしく「シャイニング・シー」という名前どおりの光の海に変身する。アツアツの料理が楽しめる国際色豊かな屋台ももちろん並ぶ。



「中之島ウエスト冬もの」の目玉の一つ、「中之島ウォーターファンタジア」。



阪神高速道路のライトアップも12月14日からエリアが拡大。鉾津橋から中之島公園内のローズポートにかけての橋脚もきれいに輝く。

OSAKA光のルネサンス2012

●中之島エリア
期間／12月14日(金)～25日(火)
プレビュー期間:
12月1(土)～13日(木)※一部のみ
クロージング期間:
12月26日(水)～30日(日)※一部のみ
点灯時間／5:00PM～10:00PM
※一部4:00PM～

●御堂筋エリア
期間／12月14日(金)～2013年1月20日(日)
5:00PM頃～11:00PM
<http://www.hikari-renaissance.com/>

中之島ウエスト冬もの2012

期間／メインプログラム:
12月14日(金)～25日(火)
エリアプログラム:12月25日(火)まで
(※プログラムにより変動)
※点灯時間はプログラムにより異なる。
<http://nakanoshima-west.jp>

たり2012」だ。開業したばかりの中之島フェスティバルタワーやウィンドウアートでおなじみの中之島三井ビルディング、中之島ダイビル、ほたるまち、京阪電車中島駅などで、さまざまな光の演出が繰り広げられる。堂島川北岸のほたるまち港では、川の水を利用した噴水に光と音楽がシンクロする「中之島ウォーターファンタジア」が登場。水辺らしい新たな光の風景が現れる。毎年足を運んでいる人も、きっと新鮮な体験ができることだろう。(大迫力・本誌)

ウイスキーショップW.

サントリーの扱う国内外のウイスキーが揃う「リアル洋酒天国」。今回の限定酒は1本10,500円。「島民を見た」と言えば、1杯100円で試飲可。ただし1人1杯限り、年内最終営業の12月26日まで。☎06-6341-3123
11:00AM～7:00PM
土・日祝休



100円で試飲できます!
2周年限定ボトル

堂島浜の銘酒の殿堂、サントリーの「ウイスキーショップW.」が2周年を迎え、今年もとおきの限定ボトルを売り出した。平成11年(1999)に山崎蒸溜所で蒸溜した中から厳選したシングルカスク(同一の樽)ウイスキー。限定536本の貴重なボトルを『月刊島民』読者向けに、試飲1杯100円(15ml、通常400円)で提供する。北米産ホワイトオークのパンチン樽(すんぐりした大樽)で熟成したウイスキーは、バナラやリンゴを思わせる甘い香りが際立ち、一口含めば甘く豊かな余韻が後を引く。阿部浩二店長は「万人向けですが、特に女性に楽しんでほしいお酒」と自信の弁。歳末の贈答シーズンに打ってつけ、中之島ならではの限定品である。(松本創・本誌)

Festival!

その華やぎは、音楽のように広がっていく。

大阪の文化とビジネスの中心地・中之島に、

地上39階、高さ200メートルの新たなランドマーク

「中之島フェスティバルタワー」が誕生。

上質感あふれる大人の街が、その一歩を踏み出します。

中之島フェスティバルタワー

2012.11.28 誕生!

● 京阪中之島線「渡辺橋」駅、地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅 直結

洗練の空間 [フェスティバルスイート]

大阪の街を一望できるタワー最上階の多目的カンファレンスルーム。



www.festivaltower.jp





芸術の空間 [フェスティバルホール]

世界の音楽家が絶賛した旧ホールの伝統を受け継ぎ、2013.4.10 開幕。



にぎわいの空間 [フェスティバルプラザ]

飲食店を中心に32店舗。よりすぐりの良店をあつめた商業ゾーン。



www.festivalhall.jp

祝祭に包まれて

—わたしのフェスティバルホール

取材・文／松本 創（本誌）

「『良い音楽を安く』を目指した私たちに
とって、フェスティバルホールの完成はとてつもなく大きなことでした。恩恵は計り知れませんが」

大阪勤労者音楽協議会、通称「大阪労音」に長く携わった濱崎宏文さん（78）はしみじみ振り返る。戦後の文化芸術史に残る芸術鑑賞運動の最盛期を知る証人である。

前身の「関西労音」は昭和24（1949）年に発足。第1回コンサートは中之島の朝日会館で開かれた。職場単位で加盟し、舞台芸術を鑑賞する活動は、労働運動の高まりを背景に、またたく間に全国へ広がってゆく。

「生の音楽や演劇がもたらす感動に、みんな飢えていたんですね。もともと音楽家志望だった私は、就職すると職場の鑑賞サークルの代表を任せられ、53年に大阪労音の運営委員になりました。当時は会員が増え続けるものの、一度に収容できるホールがない。月1回の例会は、中央公会堂や学校の講堂を借りて何回も公演をやり、なんとかこなしている状態でした」

しかも会費は月額50円と、当時の一般的な演奏会の3分の1以下。それでは何回上演しても採算は合わない。出



第2回
大阪新音楽協会顧問
濱崎宏文さん

「もう一つの夢」が開いた舞台。

演者のレベルも限られる。そんな状況を一変させたのが昭和33年（1958）のフェスティバルホール誕生だった。

「2800もの席数、クラシックの殿堂としての音響と品格。おかげで東京から有名オーケストラを招いたり、ミュージカルを企画制作したりが可能になったんです。特にミュージカルは

大きかった。一流の作曲家や脚本家、歌手に依頼して、大阪労音オリジナルの舞台がいくつもできました」

そんな中から生まれた名曲がある。「見あげてごらん夜の星を」。

永六輔脚本、いずみたく作曲で、60年6月に初演された同名ミュージカルの主題歌だ。夜間高校に通う若者たちの青春像は、同じような境遇にある労音会員の共感を呼び、14回も公演を重ねた。3年後には坂本九が映画版で歌って大ヒット。今も歌い継がれる国民的スタンダードとなった。

「大阪の勤労者と音楽家が協力してミュージカルという新しい文化を根付かせ、そこから後世に残る名曲が生まれたことを誇りに思います。これこそ、当時大阪に集った若者たちの力であり、フェスという舞台の力だ」と

もう一つ、大阪労音が先駆けとなったことがある。昭和38年（1963）

2月、フェスティバルホールの舞台に会員750人を集め、ベートーヴェンの「第九」、つまり第4楽章の『歓喜の歌』を合唱したのだ。原語で1年近く練習して。演奏は、外山雄三が指揮する大阪フィルハーモニー交響楽団。

「聴くだけでなく舞台に立ちたいという要望に応えたんです。プロの楽団と一緒に一般の人が第九を歌うのはこれが最初だったと思う。私？ 運営が大変で練習に出られず、その時は残念ながら……。でも、客席で聴いていると人間の勝利を力強く歌い上げる歌が労音の精神と重なり、心の底まで響きましたね」

最盛期には全国250の都市で組織され、発祥の地・大阪では会員15万人を数えた労音運動は、時代の変化とともに60年代末から失速していった。だが、衣替えした「大阪新音」で、濱崎さんは今もコンサート企画を手掛ける。音楽家志望だった青年が、フェスティバルホールと出会って実現した、もう一つの夢である。



昭和38年2月の「第九」合唱。80年代には会場を移し、現在まで99回続く。濱崎さんは1985年から7年間、合唱団の団長を務め、フェスの舞台にも2回立った。



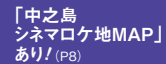
2013年4月 オープン!

festival hall

www.festivalhall.jp/

提供／株式会社 朝日ビルディング

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



●京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シスターモビル／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京都
●大阪市北区・中央区・福島区 【書店】伊勢屋書店 梅田地下街店／丸屋書店 堂島地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大坂本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 大坂市北区・MARUZENジュンク堂書店 梅田店／スターダストブックファースト／天牛書店 大江橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店 隆祥館書店
【公共施設・大学関連施設と】アイヌセンター／朝日カルチャーセンター・味の素 食のプラザリウム／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージング／大阪俱楽部／大阪工業技術専門校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館 大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣 大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会 大阪府立中之島図書館 大阪フイルムハルモニーズ会館／大阪府ボランティア協会／大阪歴史博物館 追分寺学塾 大阪城ミュージアム／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大坂リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央堂食倶楽部／ホテルNCB／メグロ扇町
【店舗・医院など】アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鯉料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／OOO（オー）／カセッタ／喫茶カンテール／喫茶SAWA グランデシア中之島 黒門かど／コムカウ／サウワ店 中之島本店／サ・マダム・ジュー／Giond's JR／心斎橋山見兄弟歯科 住友病院／セザンヌ／大阪証券取引所店／タウズスタジオ／ティ・ハムスウズカ／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ザ・ナチュール／バズドラレ／花の心 BAR THE 天神／平岡商店街／ベルマニアカフェ／フェイクミクス／ミニジロー／ディ・崎崎科／やまのり 164号／吉田理容所／ラッパ・キャー LES LESTON
●大阪市内その他 【書店】伊勢屋書店 大坂本店／紀伊国屋書店 京橋店／なんばミナト・福島書店／柳々堂／ループ書店 【公共施設・大学関連施設など】大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 【店舗・医院など】あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリバー／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御船かもめ／Cato Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネルサロン スワン／パピコホ ホテル647オサカ／MANGUEIRA／Loop A
●大阪府内 旭屋書店 京阪守口店／学達堂 フリスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 くすはモール店／水嶋書房 くすは駅店／大阪狭山市立図書館 大阪大学企画部広報・社学連携事務局 大阪大学 21世紀構想館／大阪大学本部 寝屋川市役所 摂南大学 地域連携センター 郡政考査会館／ゆとりんこ
●大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団 大手通1507キリヤビル 発・発信 納屋工房／タバーン・ジンプン／百練／奈良県立図書館情報館

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

江戸時代の中之島に数多く建ち並んでいた諸藩の蔵屋敷。
その内部の様子や働きなどを、現代に伝わる地図から探してみる。

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狹健作 綱本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎愼太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

おけいはんでゆく

宇治で一服。

宇治橋

伏見で一杯。

月桂冠大倉記念館

宇治・伏見 1day チケット



大人

550円～900円

小児

280円～450円

※乗車駅により異なります。

- ◎通用期間：発売日当日
- ◎発売期間：2013年4月14日(日)まで
- ◎発売場所：京阪線各駅
(大津線各駅・男山ケーブルを除く ※駅係員配置時間内に発売)

宇治・伏見、
水と歴史の、
まちめぐり。

お問い合わせ
京阪電車お客さまセンター
☎06-6945-4560
平日9:00～19:00
土・日曜・祝・休日9:00～17:00
※12/30～1/3は休業

ひと味ちがう、
はんなりです。
京阪電車の京都旅。
京都市街の中心部から
南にひと足で、
茶どころ宇治、酒どころ伏見。
それぞれに歴史と
文化あふれる2つの名所は、
同じ川、水の恵みで
つながっていました。
京都、だけど、ひと味ちがう、
新しい京都旅へ。
でかけませんか、
京阪電車にのって。

※ 詳しくは、ホームページ (www.keihan.net) または
京阪電車主要駅でパンフレットをご覧ください。